

「カーボンダイエットなあかり展」

コンテナ内にコンビニエンスストアを再現。コンビニエンスストアにおける照明エネルギー（本展示の仕様で1400W程度）を半減（700W程度）しながらも、商品を魅力的に照らす新たな照明デザインの提案などを行うもので、学生と国、企業が連携して2つのコンテナで実施します。

制 作：町田ひろこアカデミー、東京造形大学

照明器具協力：松下電工(株)、東芝ライテック(株)、照明アドバイザー：石井幹子

展示協力：(株)ローソン

広報協力：月刊ソトコト

<コンテナ1>

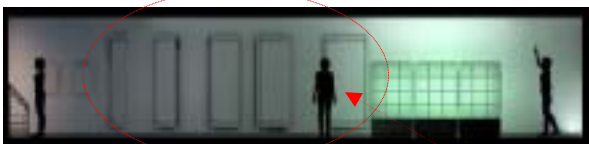
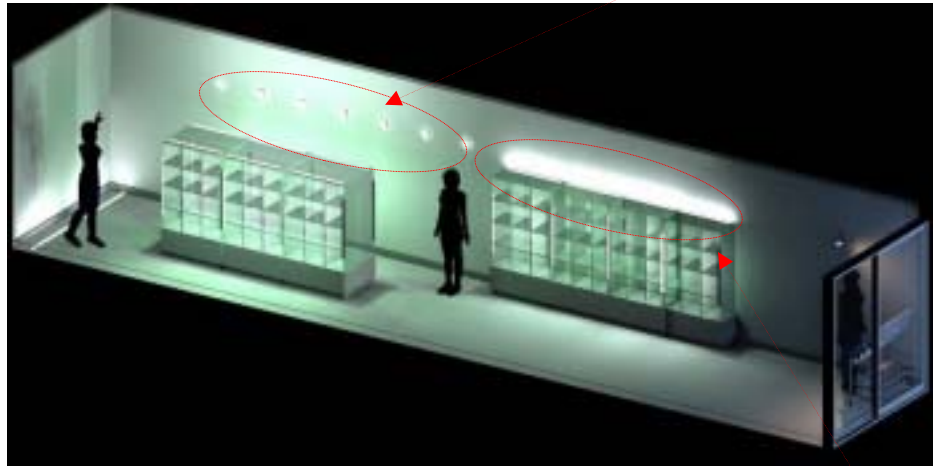
企画・制作：町田ひろこアカデミー 店舗デザイナーコース

テーマ：「必要なところに、必要なあかりを！」

概 要：「Are You green?」 チーム・マイナス6%の緑をテーマカラーに、天井の全般照明を利用しない、あたらしい照明を提案。全般照明よりも効果的に「商品を選ぶ」行為に直結させる照明はないか。そんな発想から、新しい照明を生みだしました。コンビニエンスの什器自体そのものが光るといふ新しい棚照明の提案です。

壁面の目線近くに光源(LED)を配置し体感照度をアップ。

コンテナ1：「であるコンビニエンス什器を中心とした」予想図



天井に照明をつけずに、什器の上部、横に照明を付け、商品に均等に光があたるようにした。

反対側の壁面にグラデーション状にシルバーメタルシートを張り、反射により明るさを増加させた。

画像：町田ひろこアカデミー 店舗デザインコース作成

< コンテナ 2 >

企画・制作 : 東京造形大学 デザイン学科 サステナブルプロジェクト専攻領域

テーマ : 「“ 明るい未来 ” のサステナ・コンビニ」

概要 : LED 照明を最大限に利用し未来の照明を予感させるコンビニエンス照明を実現。最新光源である LED 照明を天井に全般照明として付け、エコマテリアルとリンクして、清潔感あふれるコンビニエンス照明の次世代提案。コンテナという空間を利用した「棚」演出や、陰影を利用した商品を魅力的に見せる演出を展開していきます。

「“ 明るい未来 ” のサステナ・コンビニ」予想図



イラスト : 東京造形大学 デザイン学科サステナブルプロジェクト専攻領域 作成

「カーボンダイエットなデザインカタログ展」

温暖化防止に積極的に取り組む著名人が、自ら取り組む温暖化防止のアクションを照会したパネルを展示するとともに、照明と CO₂ の関係を紹介したパネルを展示。また、併せて温暖化の防止に役立つ製品などを展示することにより、来場者に具体的な温暖化防止のアクションの実践を呼びかける。

< 参加著名人 >

野口健 (アルピニスト)、石井幹子 (照明デザイナー)、須藤元気 (作家 元格闘家)、ハセベケン (NPO 法人 green bird 代表)、野村友里 (クリエイティブディレクター)、王理恵 (料理研究家)、藤田志穂 (シホ有限会社 G-Revo 社長)、渡辺満里奈 (タレント)、大橋マキ (アロマセラピスト)、草野満代 (フリーアナウンサー)、吉本多香美 (女優)、根本美緒 (気象予報士・フリーキャスター) 12 名予定

照明アドバイス 石井幹子氏(照明デザイナー)からの総評

2050年までに50%以上のCO₂削減。この目標に対して、今、我々は何ができ、何をすべきか？誰にも身近なコンビニエンスストアの照明を題材に、学生たちがチャレンジしました。現在使用されている蛍光灯自体が、高効率光源ですので、消費電力削減は、即ち光量の減少となります。少ない光で、心地よく魅力的で購買意欲をそそり、かつ安心・安全な空間を如何にして創り出すか、という大変難しいテーマです。

町田ひろ子アカデミーの提案は、現状へのアンチテーゼとして、天井に何も無い照明です。まず、商品のための機能的な光を確保し、さらに全体の明るさ感のための天井への間接照明という考え方は、光の有効活用上とても大切なことです。棚板ごとではなくラック両脇に縦に光源を配し、かつ透明な棚板とするなど、少ない光を如何にして活用するか、様々な工夫が図られています。照明を建築に絡めず、ラックに組み込むという考え方は、ひとつの新たな試みであるといえます。

造形大学は光源に着目し、日進月歩の最新光源であるLED(発光ダイオード)を、全面的に採用するという案です。商品ラックや通路など、必要な箇所に無駄なく光があたるように配置されたダウンライトは、細かな配光制御を行えるという、点光源であるLEDの性質を生かしています。意図的に壁も照らすことで、明るさ感にも配慮しています。また、天井からの光では届きにくい、ラック下段への光として、狭い通路を逆手にとった、向かいの壁面からの線状の光も、面白い試みです。

新たな提案の明かりと現状の明かり、2つのシーンを切り替えながらじっくりと見て、感じて、そして考えて頂きたいと思います。



石井幹子(いしい・もとこ)

照明デザイナー。石井幹子デザイン事務所主宰。

東京都出身。代表作は東京タワー、東京駅、レインボーブリッジ、函館市や長崎市の景観照明。近年はオペラの照明や光のパフォーマンスにも取り組む。2000年紫綬褒章受章。光文化フォーラム代表として、国内外の光文化の継承・発展にも力を注いでいる。